

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 6 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370747

研究課題名(和文) The Reproduction of Visible Confucian Forms in 17th Century Japan as a Case of Transculturation

研究課題名(英文) The Reproduction of Visible Confucian Forms in 17th Century Japan as a Case of Transculturation

研究代表者

Chard Robert (CHARD, Robert)

東京大学・東洋文化研究所・客員教授

研究者番号：30571492

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、17世紀日本における可視的な儒教の諸形式、とりわけ孔子廟および儒教儀礼の再生産についての考究を通して、儒教という汎地域的な文化の形成過程を明らかにするものである。具体的には、諸大名による儒教の諸形式の再生産が、日本特有の要因により、日本の儒教では公共の可視的な構築物・衣服・儀式が強調される結果となり、中国の儒教と異なるものとなったという現象を、各地の文書館等が所蔵する一次史料により解明した。

研究成果の概要(英文)：This research project elucidates the formation of pan-regional culture by investigating the reproduction of visible Confucian forms in 17th-century Japan, particularly temples and ritual. In concrete terms, the investigation of primary source materials from local archives has clarified the reproduction of Chinese cultural forms by domain lords as being driven and shaped by factors indigenous to Japan, and resulted in forms different from their Chinese counterparts in significant respects, particularly in the emphasis on public, visible buildings, garments, and ceremonies.

研究分野：中国文献学、東アジア文化史

キーワード：Confucianism Ritual

1. 研究開始当初の背景

研究代表者の主たる研究分野は中国研究であり、近年、17世紀日本の亡命中国人朱舜水(1600-1682)について研究してきた。朱舜水と彼に関係した大名・儒者について研究を進める中で、中国儒教と日本儒教の差異が明らかになってきた。すなわち日本儒教においては、孔子廟および儒教儀礼など、可視的な儒教の諸形式が重視されることである。そこで、この問題を更に探究するため、本研究の研究課題として、The Reproduction of Visible Confucian Forms in 17th Century Japan as a Case of Transculturation (17世紀日本における可視的な儒教の諸形式の再生産 トランスカルチュレーションの事例として)を設定した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、17世紀日本における可視的な儒教の諸形式、とりわけ孔子廟および儒教儀礼の再生産についての考究を通して、儒教という汎地域的な文化の形成過程を明らかにすることである。日本儒教は、従来、主に哲学・思想史の立場から研究されてきたが、日本儒教は本質的に文化現象であるため、むしろ文化史の立場から研究されるべきである。本研究では、経験・態度・価値・心性の全体性と特定の文化的コンテキストの下での現実生活の社会实践における表現を重視する文化史の立場から、17世紀日本における儒教の受容を考究する。

3. 研究の方法

(1) 本研究は、主に、各地の文書館等が所蔵する17世紀日本における可視的な儒教の諸形式の再生産に関する一次史料を用いた実証的研究からなる。本研究では、17世紀日本における儒教の広がりをトランスカルチュレーションの事例として捉える。文化の相互作用についての研究は、現在、ある文化が他の文化へ影響を与える、あるいは、ある文化が他の文化を借りるといった単純な考えから方向転換し、トランスカルチュレーションの過程(その過程では受け入れる側の行為者がより決定的な役割を果たす)を強調する洗練されたモデルを考案している。文化移転は、翻訳に似た過程として記述され、移転された文化形式の相違は錯誤や誤解であるという考えは避けられ、文化形式そのものよりも、「翻訳者」、「翻訳」のパターン、現地文化の中での「翻訳」された形式の重要性が強調される。

(2) 17世紀日本における可視的な儒教の諸形式の再生産について考究する上で参考とな

る研究分野として儀礼研究がある。儀礼研究とは、なぜ全ての社会における人間が、小は礼儀作法から、大は国家式典までに及ぶパターンをもつ行為をこれほどまでに重要視するのかを説明しようとする社会科学と歴史学における学際的な努力である。儀礼の解釈に役立つ議論(それは人類学者(クリフォード・ギアツ、ヴィクター・ターナー)が始めたものである)として、観客への意図的な影響の点から、そして、政治権力との相互関係という点から読まれることに重点を置いた、台本に基づく演劇の実演に類似したものと考える立場もあれば、また、台本と実演の関係は固定されたものではなく、偶然の状況に基づく即興の要素を含むと考える立場もある(例えばピエール・ブルデュー)。

4. 研究成果

(1) 文化史の立場から見て、17世紀における中国から日本への儒教形式の広がり、文化交流の標準的なモデルと異なっている。地理的な理由から、コロニアリズム、文化における明確な物理的境界の欠如、文化の相互浸透、ハイブリディティなど文化史研究上の多くの主題とは特に関係がなかった。当時の日本では、異文化の採用と適応の過程は、日本人自身によって始められ、管理されたものであった。

(2) 17世紀日本における可視的な儒教の諸形式の再生産において、中国儒教の諸形式を日本人のスキーマにしたがって日本人に理解可能な構造へと組み込むことにより、日本人自身の新たな儒教を作り上げていた。

(3) 徳川光圀(1628-1701)ら諸大名による儒教の諸形式(孔子廟、儒教儀礼)の再生産は、容易に認識可能な仏教の諸形式(仏教寺院、仏教儀礼)に対する代替物を提供し、民衆を儒教に惹き付けようという日本固有の要因によって推進され、形作られた。その結果、公共の可視的な建築物・衣服・儀式を強調する点において、それらの中国における対応物と異なる形式になった。

(4) 朱舜水により作成された『宗廟図序』は元来、加賀藩主前田綱紀(1643-1724)の求めに応じ、朱によって作成された宗廟の図案(現在失われている)に付随したものであった。徳川光圀の水戸藩における朱舜水の影響はよく知られており、光圀は中国の儒教儀礼の諸形式について専門的アドバイスを受けるために、朱を迎えた。綱紀との朱の関係と、加賀の儒教形式に対する朱の影響は、それほど知られていないが、朱が日本の大名(それが中国古代の封建制における「諸侯」に相当すると朱は考えた)のために宗廟に関連する儀礼形式の定式化に最初に着手したのは、実

は綱紀から強く求められたからであった。

(5) 朱舜水にとって、宗廟を設計することは、特有の問題をはらむ、複雑なものであった。朱は日本において儒教を興隆させることを自らの使命と考え、宗廟以外の儒教儀礼形式を定式化することに非常に熱心であったにもかかわらず、中国の宗廟をモデルとした宗廟を設計する仕事を引き受けることにあまり乗り気ではなかった。この気の進まなさは、中国の儒教儀礼における宗廟の重要性に由来している。諸侯の「五廟」は、皇帝の宗廟に対応するものであり、格式の違いこそあれ、重要性において類似している。それらは複雑であり、統治の儀礼制度において極めて重要な構成要素となるものである。朱がそのような責任を引き受けることに確信をもてなかったことは、中国明末の士階級である朱の世界観を考えれば、十分理解できるものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

CHARD Robert, Zhu Shunshui on the Nature of Confucian Learning in China and Japan、東洋文化研究所紀要、査読無、第168冊、2015、277 - 320
<http://hdl.handle.net/2261/59134>

CHARD Robert, Patterns of Confucian Cultural Transmission as Reflected in the Self-Perception of Zhu Shunshui in Japan、東洋文化研究所紀要、査読無、第166冊、2014、347 - 384
<http://hdl.handle.net/2261/56377>

CHARD Robert, Zhu Shunshui's Plans for the Confucian Ancestral Shrines (Zongmiao 宗廟) in Kaga Domain、東洋文化研究所紀要、査読無、第164冊、2013、317 - 348
<http://hdl.handle.net/2261/55654>

[学会発表](計10件)

CHARD Robert, Zhu Shunshui's 朱舜水 First Collected Works: The Shinso Shugo 心喪集語 of Ando Seian 安東省菴 (1622-1701)、Conference "East Asian Interactions IV", 2016.3.5、オックスフォード大学、オックスフォード(英国)

CHARD Robert, Confucian Ritual Culture Outside China: Zhu Shunshui 朱舜水 in Seventeenth Century Japan、首届辟雍論

壇 礼楽天下、2015.9.26、孔廟・国子監博物館、北京(中国)

CHARD Robert, 学行不兼: Zhu Shunshui's Criticisms of Confucianism in Seventeenth-Century Japan、Conference "East Asian Interactions III", 2015.3.7、オックスフォード大学、オックスフォード(英国)

CHARD Robert, Poetic Depictions of Confucian Rituals and the Aesthetics of Ritual、第三届礼学国際學術研討会、2014.12.7、中国美术学院、杭州(中国)

CHARD Robert, How Confucianism is Transmitted Across Cultural Boundaries: A Case from Seventeenth-century Japan、紀念孔子誕辰 2565 周年国際學術研討会、2014.9.26、中国職工之家飯店、北京(中国)

CHARD Robert, Images of the Confucian Ritual Canon in the West and Japan、第四届世界漢学大会、2014.9.6、中国人民大学、北京(中国)

CHARD Robert, Zhu Shunshui's Early Work on Confucian Ritual in Japan (1660-65)、Conference "East Asian Interactions II", 2014.3.1、オックスフォード大学、オックスフォード(英国)

CHARD Robert, Zhu Shunshui and the Implementation of Confucian Ritual Forms in Japan、明清中国与日本學術研討会、2013.12.21、香港中文大学、香港(中国)

CHARD Robert, Intercultural Reconstruction: Zhu Shunshui's Ancestral Shrines (zong miao 宗廟) for the Feudal Lords in Japan、第六届世界儒学大会、2013.9.27、中国孔子研究院、曲阜(中国)

CHARD Robert, Reconstructing the 'Five Shrines' (wu miao 五廟) of the Feudal Lords in Japan、第二届礼学国際學術研討会、2013.8.18、中国美术学院、杭州(中国)

[図書](計1件)

CHARD Robert 他、中華書局、朱熹礼学基本問題研究、2015、517(1-8)

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

CHARD Robert (CHARD, Robert)
東京大学・東洋文化研究所・客員教授
研究者番号：30571492

(2)研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3)連携研究者

なし ()

研究者番号：